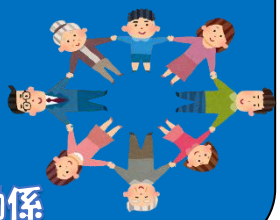
2022年8月発行

浦添市地域学校協働活動
ボランティアだより　第13号



浦添市教育委員会　社会教育推進課　社会教育協働係

夏休みが始まりました。

コロナ収束の兆しは全く見られず、ラジオ体操もほとんどの自治会が、取りやめになりました。学校でも地域でも、皆が元気に伸び伸びと生活できる日が、１日も早くくることを願います。

今回は、６月に行われた平和月間の取り組みを２件ご紹介します。

平和キャラバン講座　　６月21日　浦添小学校

浦添小学校では、銘苅健先生の一人芝居を見て平和について学びました。

６年１組の児童は地域連携室で、他の児童はZoom配信により教室で見ました。

銘苅先生が演じるおじいが、さくらという孫に語りかけるようにして、戦争の悲惨さを伝えました。「先祖からの命のバトンがリレーされ、 繋がれ現在に続く。戦争は命のバトンリレーを断ち切ってしまう悲しい出来事だ」と、繰り返し訴え語りかけました。

児童の感想

「今ではありえない子どもたちの現状、戦争の悲惨さを改めて知りました。」
「講演会で家族の大切さ、命の大切さを感じました。」
「他の人にも命の大切さを伝えていきたい。」
「笑顔があふれ、もう誰も悲しい思いをしない世界になりますように」などの感想がありました。

お問い合わせ

浦添市教育委員会 社会教育推進課 社会教育協働係 担当：富山、川畑
電話 098-876-1305（直通）　メール soedu@city.urasoe.lg.jp

平和キャラバン講座　　６月16日　神森小学校

神森小学校では、２年ぶりに体育館で平和学習を行いました。

前半は低学年（１・２・３年生）、後半は高学年（４・５・６年生）に分けて行いました。低学年は、知名正男氏（79歳）による電子紙芝居**「ひろ子ちゃんが体験した沖縄のいくさ」**と講話。高学年は、喜舎場正宗氏（84歳）による電子紙芝居**「おじいと妹キヨ子の命をうばったいくさ」**と体験談でした。

喜舎場さんが５歳の時に戦争が始まり、大切な家族を亡くされた体験を、辛さをこらえて語っていました。

「戦争を体験していないが、話を聞いて想像して、とても悲しくなった。絶対に戦争しないと強く思った。」（５年生）

「戦争から70年たって、戦争体験を語れる人が少なくなってきているが、次は私たちが語る番だと思う。」（５年生）

児童の感想

「私はこれ以上戦争が起きないように、みんなにふわふわ言葉を使ったり優しくしたい。」（２年生）

最後に、児童代表から感想と花束が、お二人に送られました。喜舎場さんから、「久しぶりに皆さんのお顔を見ながら話せたので、いろいろな思いが湧き出た。戦争を起こさない行動ができるのは、若い皆さんだ。頑張ってほしい。」と激励の言葉がありました。